

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：34407

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13162

研究課題名（和文）近代朝鮮における「婦人」の形成プロセスと女子中等教育

研究課題名（英文）The formation process of "women" with girls' secondary education in moder Korea

研究代表者

崔 誠姫（Choi, Seonghee）

大阪産業大学・国際学部・准教授

研究者番号：10867592

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は近代を迎えた朝鮮において、「婦人」がどのようなプロセスで形成されたのかについて、中等教育に焦点をあて研究するものである。本研究の成果としては二点挙げられる、第一に、近代「婦人」を育成する場である中等教育機関の教育関係者に関する経歴、動向を明らかにしたことである。特に奈良女子高等師範学校で学び、母校に戻った朝鮮人女性教員の存在は「婦人」形成に必要なことが資料から確認できた。第二に、2018年に韓国で公開された学籍簿資料を収集し、その分析を行ったことである。学籍簿資料から女子生徒の的家庭環境、成績や求められる人物像など未来の「婦人」のバックグラウンドが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年アジアにおいて女性の社会進出やジェンダーの問題が問われている。朝鮮半島の近代女子教育から「婦人」形成のプロセスをたどることは、現代にもリンクするといえる。なぜなら、この時期に「婦人」となるべく中等教育機関で学んだ女性たちは、解放後（1945年）の韓国社会を担う存在となり、教育・社会・家庭において「女性」としてのプレゼンスを示すことになるためである。

解放後の韓国社会は南北分断、独裁政権が続き、そのような中で家父長制が強調された社会となった。近代の「婦人」であった女性たちは現代韓国を形成した一員だったともいえる。

研究成果の概要（英文）：This research examines the process by which "FUJIN(women)" were formed in modern Korea, focusing on secondary education. There are two results of this research. First, we have clarified the backgrounds and trends of educational personnel at secondary educational institutions, which are the places where modern women are nurtured. In particular, the documents confirm that the presence of Korean female teachers who studied at Nara Women's Higher Normal School and returned to their alma mater was necessary for the formation of "FUJIN(women)". Second, we collected and analyzed school register materials released in South Korea in 2018. School register materials revealed the background of future women, including their home environments, grades, and the kind of person they are expected to be.

研究分野：朝鮮近代史

キーワード：朝鮮近代史 ジェンダー史 教育史

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近代朝鮮における「婦人」の形成について、そのプロセスにある女子中等教育を軸として明らかにしようとするものである。近代は伝統的な儒教思想に支配された「婦人」像から、家庭・学校・女性自身が考える「婦人」へと転換する時期である。本研究ではこのような時代背景に基づき、朝鮮における「婦人」の形成に女子中等教育が果たした役割を多角的な視点から論じる。近代に「婦人」としての形成期を経た朝鮮の女性たちは、現代においても「婦人」としてのプレゼンスを家庭及び社会で示し、彼女たちが形成した「婦人」像は現代の韓国女性が結婚・社会進出などにおいて直面する問題でもある。これは近代朝鮮という枠組みを超えて、同時代史の東アジアに共通する問題であり、その端緒である近代の女子教育が与えた影響を朝鮮から東アジアへ広げる端緒となる研究成果が期待される。

2. 研究の目的

本研究では近代朝鮮における「婦人」の形成期を中等教育課程と定義し、彼女たちの「婦人」としての行動選択・思想形成の一側面を教育の実態や学校生活を通じて明らかにすることを目的とする。

まず中等教育機関を形成期とする理由は、次のとおりである。第一に、朝鮮において女子の最終学歴が中等教育であり、卒業後の進路として「家庭」が選択されていたためである。第二に、女子中等教育機関である女子高等普通学校は、朝鮮総督府が制定した朝鮮教育令により「婦徳ヲ養ヒ、国民タルノ性格ヲ陶冶シ、其ノ生活ニ有用ナル知識技能ヲ授ク」施設であると定められていたためである。つまり、帝国日本における朝鮮「婦人」を形成するための施設として教育機関が位置づけられていた。

本研究ではこのような背景に基づき、これまで申請者が研究してきた近代朝鮮における中等教育の実態を踏まえ、女子中等教育に特化することによって、朝鮮社会・朝鮮総督府・女子学生自身が求めた「婦人」とは何かを明らかにすることを目的とする。

本研究では朝鮮の女子生徒たちがそれぞれの道を選ぶプロセスにあった女子中等教育・学生生活の実態を通じて、彼女たちの「婦人」としての行動選択・思想形成の一側面を明らかにしようとするものであり、ここに本研究の独創性がある。

3. 研究の方法

本研究は以下3点の方法に基づき実施した。

女性関係雑誌の分析

1920年以降、朝鮮人による出版活動が活発化する。その中には『女性』『新女性』『學生』などの女子学生や「婦人」向け雑誌も刊行された。これら雑誌には知識人＝男性、家庭婦人＝女性、そして女子学生が時事問題や「婦人」について寄稿している。これらの記事を分析することによって、主には朝鮮人社会が求めた「婦人」像を明らかにした。特に女子瀬戸の進路や卒業後の家庭生活に関する記事に着目して、分析した。

教科内容についての分析

ここでは、女子中等教育機関における教科内容の傾向について調べ、そこから求められる「婦

人」像を探る。教科内容の分析を通じ、朝鮮総督府が目指す「婦人」像と学生自身が目指す「婦人」とのギャップを描き出し、教育現場での「婦人」形成プロセスにどのような問題が内在していたのかを明らかにした。特に女子生徒にだけ課された家庭科の教科書を重点的に分析した。

学籍簿資料の収集と分析

2022 年韓国のアーカイブズ機関である国家記録院は、植民地期の記録資料の全面公開を実施した。その中には官公立学校の学籍簿資料も含まれており、申請者は 2023 年夏に朝鮮の主要都市・大邱の女子高等普通学校の学籍簿資料及び在籍簿資料 8 年分（1930 年卒～1938 年卒）を収集した。これらは個人情報を含み「国家記録」として扱われているが、崔が日本の永住権者ながらも韓国国籍を保持していること、韓国国内で郵送受取可能な環境であったことから収集可能となった。

学籍簿を通じて、当時の学校教育で求められていた婦人像、家庭環境、卒業後の進路が判明している生徒の学習状況など詳細な情報を得ることができた。

4. 研究成果

これらをもとにし、以下の研究成果を挙げることができた。口頭発表が中心であるが、下記にもあるように広く一般に向けた朝鮮女性史の単著が刊行予定である。また、本研究の継続研究的位置づけで、科研費基盤 C「近代朝鮮における女性専門職に関する研究：教員・医師を中心に」（課題番号：24K04197）を獲得している。

【論文】

崔誠姫「総論に代えて：朝鮮の家事・裁縫教育（特集 帝国日本の植民地教育：被支配民族教育を中心に）」（『歴史評論』（857）5-15 2021 年 9 月）

崔誠姫「1920 年代朝鮮における女子中等養育の「拡充」と女子学生の「活動」」（『東アジア近代史』（27）2023 年 6 月）：招待

【口頭発表】

崔誠姫「1930 年代女子教育の特徴」韓国慶北大学校歴史文化アーカイブ研究センター第 4 回日韓共同コロキウム「近代教育とアーカイブ」（2022 年 4 月 11 日）：発表言語韓国語

崔誠姫「1920 年代朝鮮における女子中等教育の「拡充」と女子生徒の「活動」」東アジア近代史学会第 27 回研究大会（2022 年 7 月 3 日）：招待

論文のもととなる学術発表

崔誠姫「植民地期朝鮮における専門職女性の養成：中等教員を中心に」朝鮮史研究会関西西部会例会（2023 年 9 月 23 日）

崔誠姫「学籍簿資料からみる植民地期朝鮮の女子中等教育 大邱女子高等普通学校を中心に」ジェンダー史学会自由論題報告（2023 年 12 月 10 日）

【出版予定】

崔誠姫『女性たちの韓国近現代史』（慶應義塾出版会、2024 年中刊行予定）

現在、原稿を書き終え最後の修正中。本著の内容には、本研究の成果が多分に含まれている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 崔誠姫	4. 巻 857
2. 論文標題 総論に代えて 朝鮮の家事・裁縫教育	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崔誠姫	4. 巻 27
2. 論文標題 1920年代朝鮮における女子中等養育の「拡充」と女子学生の「活動」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東アジア近代史	6. 最初と最後の頁 78-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 崔誠姫
2. 発表標題 1930年代女子教育の特徴
3. 学会等名 韓国慶北大学校歴史文化アーカイブ研究センター第4回日韓共同コロキウム「近代教育とアーカイブ」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 崔誠姫
2. 発表標題 1920年代朝鮮における女子中等教育の「拡充」と女子生徒の「活動」
3. 学会等名 東アジア近代史学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 崔誠姫
2. 発表標題 奈良女子高等師範学校の朝鮮人留学生
3. 学会等名 ジェンダー史学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 崔誠姫
2. 発表標題 植民地期朝鮮における専門職女性の養成：中等教員を中心に
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西部会月例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崔誠姫
2. 発表標題 学籍簿資料からみる植民地期朝鮮の女子中等教育 大邱女子高等普通学校を中心に
3. 学会等名 ジェンダー史学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 笹川 紀勝、李 泰鎮、邊 英浩	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 724
3. 書名 国際共同研究 三・一独立万歳運動と植民地支配体制	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------